

◇検討に至った経緯

- ・住宅のあり方は暮らし方や生き方に密着
- ・こういう暮らし方、住まい方にしていきましょうという県のビジョンが必要
- ・「まちむら」で人がどうやって暮らすかという議論の延長に住宅がある
- ・建物自体や集落についても多様性を考える必要がある

◇検討の視点と方向性（当初資料）

- ・信州の自然、歴史、文化に応じた「豊かで魅力ある住まい方の再認識情報発信」
- ・移住や二地域居住、住み慣れた地域での生活など「多様な居住ニーズを踏まえた住宅ストックのあり方」
- ・耐震化や健康長寿など安全・安心に適し環境にも配慮した「持続可能な住まいづくりの方策」

◇第1回専門委員会（R1.6.5）

<信州の良さ、信州らしさとは何か>

人に起因するもの コミュニティの心地よさ、人とのつながり など

立地に起因するもの まちと自然の丁度良い距離感、都会と田舎の hybrid な生活 など

<課題>

個々人の思いやストーリーの収集と提示

流動性に対応した住まい、住まい方

中山間地域や里山地域のフォロー

新旧の居住者によるコミュニティの活性化

不良ストックと良質ストックの選別、良質ストックの流通促進

エネルギーやコミュニティまで含めた暮らし方の環境構築、提案

はしご状の多様な暮らしのストーリーに対応した住まい方、暮らし方

◇政策対話（第1回WS） テーマ「信州の多様な住まい方について」（R1.8.4）

- ・信州の住まいを取り巻く「資源・文化・環境」には何があるか
- ・そんな信州の環境や資源を活かした「暮らし」はどんなものか
- ・そんな暮らしを実現するために「住まい」に何が必要か

◇信州の「住まい方」コンクール テーマ「信州らしい住宅・住まい方」

◇第2回専門委員会（R1.9.3）

<信州らしい暮らし、住まい方とは>

地域とつながり、支え合う

コミュニティを積極的に作り出していく環境整備

住まい開き

地域外の者を受け入れ、新しい暮らしやまちづくりを共創

地域、血縁を超えたコミュニティの創出

空間資源のミスマッチの解消

◇第2回WS テーマ「空き地、空き家を活かす本当の方法」（R1.9.28）

- ・何をやるかではなく誰がやるか→自分事にならないと
- ・「自分の暮らす街を良い環境にしたい思い」と「ストック活用をビジネスにする力」
- ・思いをもった人が取り組む+事業として成り立つ力がある
- ・①今あるものから始める ②違いを認める ③共有できるものを見つける
④楽しいことをやる ⑤人に知らせる ⑥手入れをする

◇第3回専門委員会（R2.2.26）

＜これからの住まい方の方向性（基本理念）の整理＞

専門委員から挙げられた以下の意見を整理し、令和2年度において、事業検討状況報告を行う。

1 基本理念

＜豊かな暮らし＞

- ・幸せのパラダイムシフト
- ・豊かな暮らし＝幸せ
- ・お金がなくとも幸せになれる
- ・もっとシンプルで
- ・これからの豊かさとは何か
- ・外に閉じるマイホームが多かった
- ・スクラップアンドビルドでないもの
- ・新しく建てなくとも 古い団地のリノベ等
- ・それを感じさせる住まい方

＜住まい方＞

- ・二拍子（家と仕事）の生活はストレスがたまる 三拍子、四拍子へ
- ・地域 フィーリングが合う
- ・自分の活動の場を持っている人
- ・個人が成長でき 生活の質が上がる
- ・生活アクティビティがある 楽しいことを見つけ出した人
- ・通勤に時間を取られない田舎は 自分の好きなことに時間をさける
- ・引っ張り上げる元気な人
- ・豊かさを住宅に、暮らしにどう落とし込んでいくか
- ・コミュニティが生きがいに

＜住み心地＞

- ・居心地、落ち着き、住み心地
- ・体感に勝るものなし
- ・そこに住みたいと思えるか それがベース これからの多様性
- ・キーワードの「ゆとり」 ある年齢層では「ゆとり世代」を連想 自虐的

＜信州らしさ＞

- ・2050 ゼロカーボン、前面に 環境 今までになかった
- ・自然 信州らしさ
- ・信州ならではのものが入っていない どの県でも成り立つ
- ・環境・省エネは柱の一つになりうる

＜継承＞

- ・住み継ぐ
- ・持続可能性 これまでに蓄えられてきた資源を次世代に伝えるという
- ・住みこなす 住み継ぐ 家族以外にも

＜コミュニティ・つながり＞

- ・つながりあい・支えあい プラス面とマイナス面がある
- ・既存のコミュニティを連想しないほうが良い
- ・多様なコミュニティが重なる部分 持続可能にならない

- ・コミュニティのアクティビティの入り口や窓口が地域にあれば
- ・一人一人が社会に役立っているという人
- ・一人一人が社会を支えているという思い → 自覚 時間軸のあるコミュニティ
- ・新しいコミュニティ像を示せるとよい
- ・既存のコミュニティや自治会 強制的な面があり 印象がよくない
- ・自分とフィーリングの合う人と思いを実現

<変化への対応>

- ・家族の変化に家がどう対応していくか 4人家族→夫婦2人
- ・家族の変化のスピードが思いのほか速い
- ・ライフスタイルに合わせて変えていける
- ・セーフティネットの役割ある
- ・アンケートの結果 端的に表している
- ・住環境に切ない思いを持つ人 住まいに対する思いの深い人が10%いる